

魅力百様、江東区。 入賞作品決定 オンライン観光写真コンテスト

今年も観光とスポーツの2つのテーマで募集しました。観光の「週末、私が行きたい江東区。」部門では286点、スポーツの「SPORTS&SUPPORTS」部門では61点、合計347点の応募がありました。

入賞作品は、江東区観光協会ホームページでご覧になれます 固 江東区観光協会 ☎6458-7400、FAX6458-7420 HP http://koto-kanko.jp



▲区長賞「明治丸に咲く」小池基夫さん



▲区議会議長賞「春のきらめき」若松京子さん



▲江東区観光協会理事長賞「Light Trails」川口武彦さん



▲SPORTS&SUPPORTS賞「花見も終盤」端 雅利さん



▲SPORTS&SUPPORTS賞「頑張り走者」山倉米子さん



▲SPORTS&SUPPORTS賞「母は強い」竹内秀憲さん

江東シーサイドマラソン大会



潮風を受けて4,088人が疾走

▲晴天のもと駆けていくランナーの皆さん

11月26日、夢の島競技場を起点に、第37回江東シーサイドマラソン大会が開催され、ハーフ・10kmの各部門に16〜84歳までの4,088人が参加し、うち3,812人が完走しました。今年、一般男子ハーフで海老澤太さんが、一般女子ハーフでは大塚英梨子さんが、と英梨子さんが、ともに初出場ながら大会新記録で優勝を果たしました。

各部門の優勝者は左表のとおりです。

第37回大会の優勝者(敬称略)

ハーフ	氏名	所属	記録
一般男子	海老澤 太	ラフィネ	1時間08分25秒
一般女子	大塚英梨子	ラフィネ	1時間17分30秒
壮年男子	山下 善幸	鹿島建設株式会社	1時間15分51秒
壮年女子	名越ゆかり	東京陸協	1時間30分38秒

10km	氏名	所属	記録
一般男子	関口 満	松戸市陸協	33分33秒
一般女子	渡部 優子	走るもんの会	42分20秒
壮年男子	田中 英和	日本通運 関東警送支店 駅伝部	37分11秒
壮年女子	大庭 利香		44分21秒



▲海老澤 太 ▲大塚英梨子 ▲山下 善幸 ▲名越ゆかり



▲関口 満 ▲渡部 優子 ▲田中 英和 ▲大庭 利香

のらくろマンガ賞 大賞受賞作品決定

森下文化センターで授賞式・展示会を開催

「のらくろマンガ賞」に今年も全国各地、海外から総数217点の応募があり、厳正な審査の結果、各賞が決定しました。[審査員]永田竹丸(漫画家・のらくろトリオ)、山根青鬼(漫画家・のらくろトリオ)、江波じょうじ(漫画家)、たちいりハルコ(漫画家) [授賞式]各賞の授与のほか、審査員による講評も行います。「のらくろ」も、お祝いにつけてます 時 1/14(日)14:00~ 入 どのたでも 費 無料 申 当日直接会場へ [作品展示会] 今回の全応募作品を展示します。また、過去12回分の大賞受賞作品も展示します 時 1/4(木)~14(日)9:00~21:00 費 無料 申 当日直接会場へ ※いずれも 場 固 森下文化センター(森下3-12-17) ☎5600-8666、FAX5600-8677

部門・テーマ	作品タイトル	受賞者名
一般	勘違い	石川ゴエ
イラスト「ジャンプ」	ジュニアA(小学生以下)	ウィルの上にサミーがジャンプ!
	寺嶋祥加	
	ジュニアB(中学生)	該当作品なし
コマ「旅行」	一般	おしのび旅
	杉山しげゆき	
	ジュニア(中学生以下)	夢の中のターンテーブル
	築地彩	
ストーリー	一般	約束
	酒井愛弓	
	ジュニア(中学生以下)	該当作品なし



▲区長特別賞&コマ部門ジュニア大賞



▼イラスト部門ジュニアA大賞



▲コマ部門一般大賞

カラテドリームフェスティバル全国大会 型 小学5・6年生 男子 3位 大友 伯くん(枝川小6年)

空手を始めた理由は「心と体を強くするため」と話す大友くんは、8月の全国大会の型で3位、組手でベスト8と両部門で入賞を果たしました。大会を終え、「今までこの大会の型では結果を残していたが、今回は両方入賞できたので良かった」と喜ぶ一方で、「どちらもあと一歩のところまで負けてしまったので悔しい」と感情が入り混じります。空手は強さだけでなく、相手への思いやりも学ぶことができると話す大友くん。「全国大会で型と組手のダブル優勝を果たす」という次の目標を達成するために、心と体のさらなる成長を誓ってくれました。



▲表彰式を終え記念撮影

カラテドリームフェスティバル全国大会 組手 小学3年生 女子 3位 三嶋 葵さん(第六砂町小3年)

お父さんの影響で空手を始めた三嶋さんは、8月に行われた全国大会で見事3位に輝きました。大会について「準決勝で負けて悔しかったけど、トロフィーを受け取ったときはうれしかった」と語るとともに、「キレのある動きができた一方で、もっとスタミナをつけたいと思った」と振り返ります。空手は「練習は厳しいけど、がんばれば結果がついてくる」と話す三嶋さん。その思いを胸に、来年の大会で優勝するという目標に向けて、さらなる鍛錬を続けます。



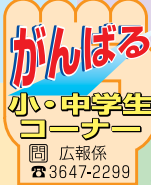
▲大きなトロフィーを手に笑顔の三嶋さん

ピティナ・ピアノコンペティション全国大会 2台ピアノ初級 2位・連弾中級B 銅賞 山下 順一郎くん(第五大島小5年) 宗一郎くん

日本最大規模のピアノコンクールで、昨年の全国6位を上回る成績を残した双子の順一郎くん(5歳)と宗一郎くん(4歳)。小学生でありながら、中学生の2台ピアノ部門全国2位、高校生の連弾部門全国3位(銅賞)に輝きました。念願だった表彰台に立ち、「うれしくて、めまいがした(順一郎くん)」。「心の底から感動した(宗一郎くん)」と喜びます。先輩たちに負けないよう音作りと表現を磨き上げ、息ぴったり演奏で聴衆を魅了した2人の今後の目標は、「大人の部門で全国1位になること」です。



▲尊敬する人は両親と先生という2人(手前から宗一郎くん、順一郎くん)



全国JOCジュニアオリンピック シンクロ 渥美舞依子さん(東雲小6年) 10~12歳チーム 2位 吉原 英香さん(豊洲小5年)

オリンピックも輩出している東京シンクロクラブに所属する2人。夏の全国大会で、8人で行うチームのメンバーとして参加し、見事に2位で銀メダルを獲得しました。夏休みには毎日練習して臨んだ大会を終え、「小学校最後のジュニアオリンピックだったので悔しい(渥美さん)」。「1位が目標だったので悔しいが、メダルがもたらしたのはうれしい(吉原さん)」と話します。この経験を糧に、「シンクロの選手になりたい(渥美さん)」。「来年は優勝したい(吉原さん)」という2人。偉大な先輩たちに近づくため、次の一歩を踏み出しています。



▲賞状と銀メダルを手に(左から渥美さん、吉原さん)